

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 小樽市立高島小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒047-0048

北海道小樽市高島5丁目6番1号

E-mail takashima-ps@otaru.ed.jp

Website http://www.otaru.ed.jp/takashima-ps/

幼児児童生徒数 男子 129名 女子 119名 合計 248名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳 ~ 12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

■活動の目的・ねらい

本校は、平成25年6月にユネスコスクールに認可され、祝津地区の水族館の協力を受ける等、豊富な自然をもとにした「ふるさと教育」を軸に「①人権・平和 ②福祉 ③環境 ④国際理解 ⑤地域の伝統文化、文化遺産」をテーマにしている。実践してきた「生活科」「総合的な学習の時間」の取組をESDの視点から、「学習がつながる」～学年がつながる 低・中・高と積み重ねる～、「社会とつながる」～地域の環境・人・産業とつながる～ことを考え、「つながる」をキーワードとして活動を進めている。とりわけ、この地球で生きていくことを困難にするような問題について、立ち向かい、解決していくための学習を子どもたちの実生活と照らして考えさせ、日常のよりよい生活を持続させていくことで、持続可能な未来の社会を創造していく人間性を涵養していくことを目的としている。

■活動内容

①人権・平和

児童会が中心となって、〈学校を笑顔にする運動〉の一環として「挨拶運動」

「高島自慢」「いじめ防止標語」に取り組んできた。また、「ユネスコ寺子屋運動」として、書き損じハガキの収集、福祉協議会と連携した赤い羽根共同募金の活動も行ってきた。

②福祉

5・6年生が総合的な学習の時間において、校区内にある老健施設職員を講師として招き、「認知症サポーター研修」を実施した。5年生においては高齢者疑似体験も行うことで、さらに高齢者への理解を深めてきた。また、2年生においては、老健施設を訪問し、高齢者との交流を図ってきた。

③環境

全学年が地域にある水族館・博物館・商店等の協力をもとに、実体験をもとにしながら地域の産業や歴史、環境について学んできた。また、児童会の活動として学校周辺の環境の美化を目的に、全校児童による、清掃活動・落ち葉拾いを行い、資源の有効活用を目的に「プルタブキャップ」回収も行ってきた。

④国際理解

学校独自のカリキュラムのもと、3・4年生において外部講師を活用しながら外国語活動を行い、他文化、他言語への理解を深めてきた。

⑤地域の伝統文化、文化遺産

地域にある歴史的建造物や博物館についてその歴史や役割を学ぶとともに、写生を通して建造物としての意義も考えてきた。また、隣接するプールにおいて古式泳法の参観を行い、伝統文化にも触れてきた。



認知症サポーター研修



挨拶運動



清掃活動



老健施設との交流

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

<input type="checkbox"/> 高齢者疑似体験グッズ (自作)
<input type="checkbox"/> ウェブサイト
・ 日本ユネスコ協会連盟 (http://unesco.or.jp/terakoya/kakisonji2018/)
・ 公益財団法人かがわ健康福祉機構 (http://www.kagawa-swc.or.jp/home/kaigo/kourei.htm)
<input type="checkbox"/> 認知症サポーター小学生養成講座副読本

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、校内研究を軸として、指導方法工夫改善に取り組んでいる。とりわけ、「課題」「見通し」「自己探求」「交流・深化」「まとめ・演習」といった授業展開・単元展開を全校的に統一することで、確かな学びを支えている。ユネスコスクールとしての様々な活動は、総合的な学習や生活科の中で教科を横断的に再構築させることで、学びを実生活の中で確かめる大切な機会として、教育課程の中に位置づけられている。また、目標に照らして、活動内容の評価を常に検証し、見直し・改善を図っている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

学校全体として「ふるさと教育」を軸とし、さらに各テーマとの関連性において、すべての教育活動にそのエッセンスを盛り込み、関連づけながら、ユネスコスクールとしての自覚をもちながら指導にあたっている。また、教育課程に位置づけられた教育活動は、教科の目標と合わせて、常にESDの視点を通してその成果を評価することで、学校全体としての一体感を高めるとともに、持続性の高い取組となるように、その精選を図っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

日常の教育実践は学校便り・学級便り等で地域保護者に発信し、懇談会・保護者アンケート・学校評議員会等で、意見を聴取している。職員の自己評価を年に2回行い、機動的な見直しを進めている。また、今年度は市内教職員にユネスコスクール活動公開として児童の活動や活動の趣旨を広く公開した。保護者や学校評議員からは「異学年で関わり合う活動の必要性」「学習したことを伝える相手意識の醸成」参観した教職員からは、「学習内容の目的との関連性」等、課題の示唆を得た。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

小樽市社会福祉協議会主催「福祉教育懇談会」において、代表児童がとりわけボランティアにつながる活動についての発表を行った。発表後、地域の方々（町会・企業・民生委員）と懇談をする中で「子どもたちの発想が工夫されている」「この活動を続けてほしい」等、学校以外からの評価を得られたことで、児童の活動意欲が高まった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）
（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

- ・おたる水族館→海洋生物見学・バックヤード（キャリア教育）ツアー
- ・地域老健施設→高齢者との交流・認知症サポーター研修
- ・小樽市社会福祉協議会→ボランティア活動報告会参加・共同募金
- ・地域商店街→職場・職業見学（キャリア教育）
- ・小樽市教育委員会→伝統文化紹介・歴史的建造物見学

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

ユネスコスクールHPを活用しユネスコスクール認定校のHPを定期的
に閲覧しながら、活動内容を参考にするなど活用を進めている。また、本
校の取組の様子についてもHPなどで照会している。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調した
い）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地
域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

ESDの理念のもと行ってきた総合的な学習・生活科を通して得た学び
の発信・享受を全校行事として行った。その際、異学年が関わることを基
本にすることで相手意識の明確化を図ってきた。また、その活動の様子を
市内教職員に公開し、活動の目的・内容・効果について多数の示唆を享受。
活動の公開は職員の適度な緊張感になり、児童にとっても、個人の取組が
クラスや学年の取組になり、全校的な活動になることで、さらに責任感や
達成感の醸成につながっている。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

＜共働を通して思いやりと信頼に満ちた学校（ユネスコスクール）＞
～児童・教職員の信頼関係の確立と、
思いやりに満ちた誰もが安心できる学校～

◎地域で生きる学校

- ・地域の教育資源や人材を積極的に活用し、協働を通して共に児童を
守り育てる体制。
- ・積極的な情報共有と情報交換によって、学校と家庭、地域との信頼
関係を築く。
- ・日常的に地域との連携・共働を心がけ、地域貢献を行う。

5月→環境美化運動 7月～8月→地域施設・商店街見学

9月→いじめ防止標語の取組 老健施設との交流

10月→赤い羽根共同募金 2月→ユネスコ寺子屋運動